

2026年度 事業計画書
(2026年4月1日～2027年3月31日)

公益財団法人アサヒグループ財団

2026年度 事業計画書

合併後4年目となる本年度、多様化する社会課題に向き合い、持続可能かつ創造的で豊かな社会の実現を目指して、芸術文化並びに学術研究の振興、両分野の協創を通じた新たな価値の創出への貢献を実行する。

学術研究助成は、専門性の高い学術研究に対する助成活動を行い、対象とする研究分野の学会、研究者への一助とするために事業活動を展開し、知の創造と発展に向けた支援を行う。

2025年度の助成先による研究結果の報告会は、実開催とオンライン開催を併用したハイブリット開催を予定し、選考委員の先生方をはじめ、役員、アサヒグループ参加者の意見交換の場とする。それらを踏まえて最終報告を研究紀要としてとりまとめ、財団Webサイトで広く発信する。

芸術文化活動としては、アサヒグループ大山崎山荘美術館の運営を中心に活動する。また、美術館運営事業と関連性の高い伝統工芸の技術の保存と活用、芸術文化向上に寄与する活動に対して助成を行う。

主たる事業の計画

1. 学術研究活動への助成

「食・生活部門」と「環境・サステナビリティ部門」の2部門について、総計122件(2025年度99件)の応募案件から選考した17件に対して総額1,600万円の助成を実施する計画とする。

2. 助成研究のサポート、社会発信

助成先の研究者の結果発表を控えた段階で、財団選考委員を中心に、対象分野の研究者に参加を求めて、研究結果報告、意見交換の場を提供する。様々な視点からの助言にもとづき研究成果をブラッシュアップするとともに、理解しやすい内容にまとめ、研究結果は「研究紀要」として記録し、財団Webサイトで広く社会に発信する。

また、助成研究や顕彰に関連するテーマについて、講演・シンポジウム等、広く一般向けの情報発信の機会の提供を実施する。

3. 学術顕彰事業

アサヒグループ学術振興財団において2022年度より再開した顕彰事業を、2026年度以降も継続して実施する。昨年8月下旬より、対象者（過去5年研究助成授与者92名）に対して募集要項を送付し、9月1日から30日の間で申請を募った。結果、4名の申請を受理し、選考委員会（2025年12月5日）を実施し、2名の研究者を選考した。

研究賞受賞者には、記念講演の実施を依頼し、内容は一定期間財団WEBサイト等で広く発信する。

4. 芸術文化活動への助成支援

公益社団法人日本工芸会は「日本伝統工芸展」をはじめ、伝統工芸の技術の保存と活用、伝統文化向上に寄与する目的で開催されており、当財団は2008年から助成をしている。

助成を通じて得られた知見や、主催者である日本工芸会との人脈を、アサヒグループ大山崎山荘美術館の運営に活かしている。

本年も引き続き「日本伝統工芸展」を中心とする公益目的事業の活動費として、日本工芸会へ50万円の助成を実施する計画である。

また、美術館運営にあたり、地域連携や多様性の促進等を目的とした関連団体との共同取組について助成を含め検討する。

5. アサヒグループ大山崎山荘美術館の運営

アサヒグループ大山崎山荘美術館は、常設展・企画展・地域貢献活動・教育普及活動等を通して、楽しい生活文化の創造を提案し続ける。

2026年度は、4月に開館30周年を迎えることを記念し、2026年3月20日から開館30周年記念企画展を順次開催する。

また、4月18日に記念式典を開催し、30年にわたり支えて下さった方々へ感謝の気持ちを届ける。5回にわたり記念講演会を開催し、美術館開館並びに運営に深い関係のある著名人を招いて美術館の魅力を語って頂く。

開館30周年のコンセプトには「訪れるたび、心がうごく」を掲げ、何度来館しても新たな

発見がある美術館であり続けたいという願いを込め、1年を通して関連取り組みを推進していく。

運営にあたっては、展示(展覧会)を中心として以下7つの活動を進める。

1) 展示(展覧会)

当館の資産である所蔵品コレクションを最大限活用しながら、テーマ性・ストーリー性を持った常設展・企画展を実施する。

【2026年度展覧会概要】

①「没後100年 クロード・モネ展」

2026年3月20日(金・祝)～ 2027年4月11日(日)

建築家の安藤忠雄氏が設計した展示室「地中の宝石箱」(地中館)にて、コレクションの軸の一つであるクロード・モネ作品を通年で展示。《睡蓮》5点、《日本風太鼓橋》ほか3点の所蔵作品8点を全て公開するのは、10年ぶりとなる。

②「共鳴 河井寛次郎×濱田庄司 山本爲三郎コレクションより」

2026年3月20日(金・祝)～ 2026年9月6日(日)

当館の所蔵する山本爲三郎コレクションは、民藝運動の中心的人物であった陶芸家 河井寛次郎と濱田庄司の作品を中心に構成される。学生時代に出会い、その後も生涯を通じて深い親交によって結ばれた二人の人生と作品の変遷をたどる。

③「ジョルジュ・ルオー」(仮称)

2026年9月19日(土)～2026年12月6日(日)

パナソニック汐留美術館が所蔵するルオー・コレクション約40点とともに、当館所蔵のルオー作品を展示する。キリストの肖像や道化師など、聖俗の両面を主題にした作品群から、ルオーがそれぞれに込めた聖性を浮き彫りにする。

④「萩尾望都展 ー欧州への憧憬」(仮称)

2026年12月19日(土)～2027年4月11日(日)

日本を代表する漫画家・萩尾望都氏の貴重な原画の数々を、欧州をテーマに展覧する。イギリスのチューダーゴシック様式が建築の特徴である洋館・大山崎山荘(本館)をもつ当館で、萩尾氏の描く作品世界の魅力に迫る。

2) 作品収集・保管

山本爲三郎コレクション(民藝運動ゆかりの作品)、アサヒグループ所有コレクションを中心とした当館所蔵品を公共の財産として未来につなぐ。

当館コレクションと親和性の高い作品については、寄贈受け入れや購入を検討する。

収蔵庫が容量不足であり、かつ作品の管理活用の促進を図るため、外部倉庫借庫(ヤマト運輸 京都美術品支店)を更に進める。

3) 調査・研究

当館所蔵品の研究深耕を継続するとともに、将来開催の企画展に向けた準備と合わせ、学芸員の専門性を高めるため継続的な調査研究活動を進める。

4) 教育普及・地域貢献

・地域社会の創造性を高める拠点として、京都府乙訓(おとくに)・洛西地区を中心とした児童の教育普及活動を行う。具体的には、2024 年度に再開した地元小学校への出前授業(3年生～5年生を対象)や、中高生の職場体験受け入れ・インターンシップ等を引続き進める。

・地域活性のプラットフォームとしての役割を果たす。地域の国宝・文化財施設、および京都府とのネットワークを強化し、観光客誘引に貢献する。同じく設立30周年を迎えた「大山崎ふるさとガイドの会」との連携を深める。

5) リスクマネジメント:

自然・人為災害、業務妨害に対する対応策の総点検と訓練を継続実施する。

6) 30周年記念講演会の開催

【講演会 概要】

①建築家 安藤忠雄氏「可能性を求めて ～大山崎山荘美術館の 30 年～」

2026年4月18日(土) リーガロイヤルホテル京都にて開催

②元咲くやこの花館名誉館長 久山敦氏「園芸課モネとその背景」

2026年6月6日(土) 同上

③日本民藝館館長 プロダクトデザイナー 深澤直人氏「山本爲三郎コレクションと日本民藝館」

2026年6月13日(土) 同上

④大原美術館館長 美術史学者 東京大学名誉教授 三浦篤氏「日本におけるクロード・モネ」

2026年10月17日(土) 同上

⑤作家 原田マハ氏「美の宝石箱 開館30周年 大山崎山荘美術館の魅力」

2026年11月8日(日) 同上

7)その他の取り組み

①お客様対応・接遇クオリティの向上

受付・ショップ・喫茶・館内案内・送迎サービス・問い合わせ対応等、お客様対応・接遇のクオリティを向上させる。

②施設の維持・管理・整備

お客様の安心・安全の確保、所蔵品の保存、お客様の満足度向上のための持続的な施設維持のための整備を行う。

③広報発信の強化

従来型メディア(新聞、雑誌、テレビ、ラジオ)に加え、SNS 等を活用した情報発信を強化する。

主たる事業の予定

2026年度(2026年4月1日～2027年3月31日)

年	月	日	項目	摘要
2026	4	14	研究助成授与式 研究賞授賞式	・2026 年度助成先研究者を対象に開催 ・2026 年度受賞者を対象に開催
	5	26	理事会	・2025 年度事業報告・計算書類等承認の件

	6	18	定時評議員会	・ 2025 年度事業報告の報告、計算書 類等承認の件
	9	1	研究賞の公募開始	募集期間：～9/30
	9	上旬	日本工芸会への助成	
	9	19	大山崎山荘美術館企画展	「ジョルジュ・ルオー」（～12/6）
	10	下旬	研究結果報告会	2026 年度学術研究助成の報告 2 部門ごとに開催
	11	1	学術研究助成公募	募集期間：～11/30
	12	中旬	研究賞の選考委員会	
	12	19	大山崎山荘美術館企画展	「萩尾望都展」（～2027/4/11）
2027	2	上旬	助成選考委員会	2 部門ごとに実施
	3	上旬	理事会	・ 2027 年度事業計画・収支予算の 承認の件

以上